

第三者評価結果

評価機関：日本語教育機関教育活動評価委員会

エリート日本語学校

総合所見〔日本語教育機関教育活動評価委員会〕

【達成状況】

学校の教育目標を「校訓」としてホームページや学校案内冊子に明示するとともに、日常の指導や校務の中で言及する機会を重ねて設けていることは、教育活動の基盤を学内で持続・共有する方策として評価できる。また、生徒収容定員 1,000 人、教員数 95 人、校舎 3 棟という大規模な学校での教育活動を、クラス編成・カリキュラム構成・生活指導・進路指導・教職員業務分担など多面において工夫した方法・内容・態勢で進めていることが関係資料に看取され、総体として肯定的に評価できる。

ウェブサイトは、学校生活の動画から導入して進学状況や学校行事などの最新情報を日付入りで更新するとともに、学校紹介・カリキュラムなどの基本的な学校情報をよく整理した枠組で提供している。印刷冊子の毎年度版「学校案内」も、基本的な情報を豊富な写真・図版を添えて整ったレイアウトで掲載しており、電子・印刷の両媒体ともに、学校情報の開示は良好であると評価できる。

入学者募集に関して、現地の仲介機関の選定や活動状況の把握・評価、先方への情報提供等に留意していること、また入学者の 8 割前後を占める中国における募集や生徒選抜には現地（大連）事務所を置いたり中国語が可能な事務職員 7 名を雇用して中国募集担当者を配置したりして募集実績の持続に努めていることが理解される。

コース設定やカリキュラム構成に関して、初級～上級のレベルの内容やそれぞれの到達目標を明示した枠組や、試験に基づくレベル別クラス編成による生徒指導体制を吟味しながら持続していると評価できる。それを支えることとして、各種試験の「要項」の整備や、生徒関連の各種情報の電子化と管理運用の進展などが上げられる。また、進路指導について、教職員用の「進路指導の手引き」を整備して組織的に行うとともに、面談指導の記録や進学活動の経過・実績を生徒ごとに詳細な電子情報として蓄積するシステムや態勢を整えて本格的に運用を進めていることが特記される。

【課題・改善要望等】

ホームページや学校案内冊子を含めた対外的な情報発信や学内での配布資料のうち、必要な多言語化が未達成のものについては、すでに実現しているものに加えて、順次整備していくことが望まれる。

納入学費の返還に関する規定は、現行の規定内容や文言について吟味・改善を行うとともに、来日直後の生徒や海外の経費支弁者・募集仲介機関にもまぎれなく伝えるために必要な多言語化や適切な開示方法を検討することが望まれる。

教員の研修について、教育経験や勤務状況の多様な多人数の教員による教育活動をより組織的・有機的に行うために、レベルや分野を意識した現行の学内研修をさらに充実させることが期待される。

教職員の業務についての評価に関して、従来の実施状況を点検しながら、評価の観点・手順などが評価関係者に明示的な制度を策定して計画的に実現していく努力を期待する。

授業記録簿の実例資料には、教員の勤務記録にあたる内容の記述が目立つと思われた。授業記録としては、教材使用・指導法・進捗状況などについての具体的な記録が期待される。それらが集積されれば、教材や教室運営等についての学校や教員の貴重な情報資源になると思われる。こうした情報を積極的に活用することを目指して、授業記録簿の記入枠組の吟味や、現行の手書きに替わる電子的な入力・蓄積の導入も含めた検討を、将来に向けて期待したい。